

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名城大学天白キャンパス(仮称)全学共用棟	階数	地上3F、地下1F
建設地	名古屋市天白区塩釜ロー一丁目501番 他23番	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第二種中高層住居専用地域、近隣商業地域	平均居住人員	3,640 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,100 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年5月17日
敷地面積	112,771 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	6,998 m <sup>2</sup>	確認日	2023年5月17日
延床面積	17,916 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 84%

③上記+②以外のオンサイト手法 84%

④上記+オフサイト手法 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他 特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・メインアリーナの空調は床放射空調方式を採用し、居住域の上下温度差や気流速度に配慮。居室の換気は30m <sup>3</sup> /h人以上とし、室内空気質に配慮 ・人感センサー制御の導入 ・高効率、長寿命なLED照明器具の採用	・節水器具の採用、既存井水系統の利用 ・内装と一体となった照明やサインの計画 ・将来における設備改修更新スペースの確保	特になし
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・高効率熱源(空冷ヒートポンプモジュールチラー)、全熱交換器の採用。節水器具の採用 ・高効率機器変圧器の採用 ・節水器具の採用	・オゾン破壊係数=0の冷媒を使用 ・グリーン購入法基準を満たす機器の採用	特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

名城大学天白キャンパス(仮称)全学共用棟

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.0</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 3.5
	
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 2.3
	
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.0
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。